

なからぎ

171号

2005年4月

世界地図が描けますか

附属図書館長 春山 洋一

新入生の皆さん、在校生の皆さん、入学・進学おめでとう。皆さんの大学生活が豊かで実り多いことを願っています。

原稿を書いている3月初めは卒論や修論も終わり、学生時代の記念として卒業旅行に行くことが定着しています。私の研究室の4回生やM2も旅行に出ているところです。最近は海外に行く学生が増えているようです。私も国際会議などで海外には結構行っています。歴史や文化、習慣が異なる他の国で様々な体験をすることは、日本や自分を普段とは違う基準で見直すことになり、よい経験だと思っています。

さて、今年2月22日付けの日本地理学会・地理教育専門委員会からのセンセーショナルな調査結果が新聞を賑わしました。曰く「イラクがわからない大学生が44%もいる！」。調査は最近メディアによく登場した10カ国(アメリカ、イラク、インド、ウクライナ、ギリシャ、ケニア、北朝鮮、フランス、ブラジル、ベトナム)を選んで、世界地図上に記した30カ国から選ぶというものです。調査対象は25大学3773人の大学生と9校1027人の高校生です。湾岸戦争、自衛隊派遣、相次ぐ自爆テロ、米軍の爆撃下での先の選挙等、多くのニュースに取り上げられたにもかかわらずイラクの正解率は高校生、大学生ともほぼ55%程度でした。隣国の北朝鮮については、衝撃的な数値ですが、大学生の10%、高校生の24%が間違えたといえます。

私も問題をネットから落としてやってみました。新聞やニュースを見る人には難しくない問題でした。府大の学生ならもう少しまじらうと思ひ(願ひ)ながら考えました。地理が分かっているというのはどういうことでしょうか？このテストは国名と地図上の番号の対応を答えるものでした。もし、国境だけの世界地図を渡して、国名を書きなさいといったらどれほど書けるのでしょうか？もし、紙と鉛筆だけを与えて、記憶を頼りに世界地図を描き、適当な国境線を引き、そこに地名や国名が書けといえましょうか？

白紙に地図を描くのは単なるテストとは違って、認識の深さが試されます。新入生の皆さん、世界地図が描けますか？大学で学ぶということは、断片的な知識を覚えるのではなく、自らの知を認識し掘り下げること、それを自らの世界として構築し直す作業です。そのためには、受け身ではだめです。時には、ケータイの電源を切り、イヤホンを外しましょう。そして、ゆっくり想いをはせながら本を読みましょう。あなたの独自の世界を創り出すために図書館を訪ねて下さい。整然と並ぶ背表紙を眺めるだけでも、大きな地図帳を開くだけでも、あなたの世界が変わりはじめます。図書館スタッフは皆さんの来館を待っています。

調査報告と調査票は以下のURLにあります。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/home_J.html

(はるやま よういち：人間環境学部教授)

書庫に眠る古い本

図書館運営委員 山田 秀和

古い本の話をしたい。

ここでの古い本とは、明治大正期の文豪の初版本とか江戸時代の希覯本とかの古書専門店に持ち込めば高値で取引される類のものではない。数十年前に出版された科学の古い本のことである。

現在、夥しい数の書籍が出版されている。月に数回ほど書店に立ち寄るが、好景気の頃と比べると幾分は少なくなったようではあるが、かなり多くの新刊本を目にする。殆どは上質紙に綺麗な印刷で、入門書ではカラーの図版入りで懇切丁寧に書かれている。内容のすばらしい本もある。しかし、他人のデータを寄せ集めた類のものや、論旨の曖昧なもの、タイトルが大げさで中身のないものも目につく。玉石混淆である。出版社が営利優先で、また著者が業績を誇示しようとして出版するためである。

今から半世紀ほど前、日本が戦争に敗れた頃、ちょうど筆者が生まれた頃である。その頃は、衣食にも事欠き、出版が簡単にできる状況にはなかった。出版用の紙は割当制であったようである。そうした時代には出版社も著者も良い出版を心がけていたことであろう。紙質が粗悪で装丁が不十分であったとしても、内容と著者は一流のものが選択されたであろう。そんな時代に出版された本が、時代を経て

今や顧みられず古書として本学附属図書館の書庫にも眠っている。そんな古い本を紹介したい。

『結晶学概論』(須藤俊男著)という本がある。奥付には、昭和23年9月10日、北隆館出版、定価270円とある(附記1)。表紙は安手のボール紙、印刷技術や紙質が悪いため数式や図表は見にくい。筆者は、学生時代にこの本を本学の旧図書館2階の書庫で見つけて、数度に分けてコピーをとり読んだ(附記2)。かなり古典的な内容で現代の科学常識からすると一部に誤りがある。しかし、簡潔な文章で歯切れ良く書かれ、著者のこの本に対する意気込みさえ感じられた。一度は眺めてみて欲しい良書である。なお、昭和40年代に同じ著者が同名の本を新しく書かれている。しかし、筆者はこの新しい『結晶学概論』を読み進める気にはならなかった。旧書に見られた簡潔な記述がやや失われたように感じたためである。本学の書庫には、久保昌二著『強電解質の理論』昭和23年11月、学術図書出版刊、定価180円もある。これも良書である。

槌田龍太郎著『金属化合物の色と構造』も興味深い本である。この本を読んで錯体化学を専攻した人が多かったと聞く。この本をずいぶん探し求めた記憶がある。山口克先生(本学名誉教授)にお願いして御自宅を探して頂い

たこともあるが見つからなかった。後日、京都府立総合資料館にあるのを知り（誰かの寄贈本に含まれていたらしい）、コピーし、今も手元に持っている。この本は昭和19年9月、増進堂から出版されている。

上記3冊より更に古いのが、片山正夫著『化学本論』というのがある。日本人化学者が書いた最初の物理化学書だそうである。宮沢賢治が愛読した本ともいわれている（附記3）。学生時代にこの本のことを知り京都市内の古本屋を探し歩いたが入手出来なかった。ずいぶん後になって、恩師の服部共生先生（本学名誉教授）が所蔵されているのを知り、お借りすることが出来た（いまも借りたままになっている）。この本の初版は大正4年であるが、手元にあるのは増訂改版第十版で、定価金拾円、内田老鶴圃から昭和4年の刊行である。「葛西」の印があり、おそらく服部共生先生が先輩の葛西善三郎先生（京都大学名誉教授）から譲り受けられたものであろう。内容構成は現在の物理化学書と大きな違いはない（もちろん量子化学的な内容はない）。しかし、単位系、符号の取り方等に違いがある。そのため、一度読み始めたが頭が混乱するので中断している。定年後に楽しみたい本の候補でもある（附記4）。

紹介した化学関係以外に、数学、物理、生物、地球科学等の分野でも多くの良い古書が本学の書庫にも眠っているはずである。

いうまでもないことであるが現代科学の進歩はすさまじく、数年で内容が変化する時代である。10年前の専門書が役に立たないこともあり、最新の知識・情報を学ぶには新しい本

に限る。しかし、たまには書庫に入り古い本を手にして欲しい。紙質は悪く装丁はみすぼらしく、殆どの場合カラー図表もない。文体も活字も古く、例えば「化学研究の内容をして殆ど一變せしめたと同時に、其の應用方面に於いても-----」と読みにくい。現在の本と目次を比較するだけでも良い。古きをたずねて新しきを知る「温故知新」、このような態度が科学の世界でも時には必要だと筆者は考えている。

附記1) 昭和23年の270円はかなり高額である。因みに「戦後値段史年表（週刊朝日編、朝日文庫）によれば昭和23年当時の葉書1枚は2円で、単純に計算すれば270円は今の6,000～7,000円に相当する。

附記2) 本学図書館の旧館は2階建てで南門を入った東側にあった。現在の図書館とは正反対で、2階の書庫はとりわけ狭く暗く、雑然とし、埃だらけで、少し臭いがした。しかし、筆者にはかなり落ち着ける空間であった。

附記3) 「雨二モ負ケズ風二モ負ケズ-----」と詠んだ宮沢賢治は盛岡高等農林学校（現在の岩手大学農学部）で土壤肥料学を修め、教員として花巻農学校で土壤学を講義している。筆者と同じ専門分野の人である。賢治の作品の随所に科学（化学）の話が出てくるのは、彼の専門のせいであろう。

附記4) 『化学本論』も本学の書庫に眠っている。この拙稿を書いた後で、本学で所蔵することを図書館の方からお教えいただいた。

（やまだ ひでかず：農学研究科教授）

図書館へのいざない

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

これから新しい生活を、ここ京都府立大学(以下府大と略します)で過ごされるわけですが、キャンパスライフのひとつにぜひ図書館も加えてください。

というわけで、簡単なガイドをしたいと思います。詳細は、入学式の時に配布の図書館の封筒の中に同封した「B5版の『図書館利用案内』」をお読みください。また、必要な方は、2階閲覧室カウンターまでお申し出くださればお渡しします。

図書館は、本を借りるだけのところだと思っていませんか?実はそれだけではない、便利な活用方法がたくさんあります。今の図書館は重要な情報収集の場。講義にクラブにアルバイトにetc.忙しい学生生活にこれを利用しない手はありません。また、時間に余裕のある時、何気なく書架の間を巡っていると、思いもよらぬ新たな出会いがあるかもしれません。

府大で既に何年かを過ごしているにもかかわらず、まだ、一度も図書館に入ったことのない方々も、新年度になったのを機会に、ぜひ図書館デビューしてください。

1. 入館の際のマナー

館内は全館喫煙はもちろん、飲食もできません。ペットボトル等はバッグの中に入れてください。

2階閲覧室へは、バッグ類の持ち込みはできません。2階階段を上ったところにロッカー室がありますので、その中に入れてください。なお、貴重品は、個人できちんと管理してください。

2階閲覧室に入室の際、持ち込み図書(3冊まで)に、冊数に応じた札をはさんでください。図書館の本と区別するために必要です。

図書館内では静かにしてください。携帯電話は音が出ないようにし、通話をご遠慮ください。

パソコンの持ち込みは、利用環境がありませんので、ご遠慮ください。

2. 設備など

2階閲覧室にコピー機があります。図書館が所蔵する資料を、著作権法の範囲内で複写可能です(モノクロのみ/1枚10円)。ノートや私物のコピーはできません。

3階には自習室があります。ここは荷物の持ち込みは自由です(もちろん、飲食はできません)。

3階には、個人閲覧室4室(一人で勉強する)、共同研究室2室・控室(15人程度までのゼミや学習会に利用可能)があります。図書館カウンターで事前に申し込みをして(当日受付可能)利用してください。

2階閲覧室内には、インターネット体験用PCが6台あります。大学LANを経由して接続しているということを念頭に置いて使ってください。

2階閲覧室内には、資料情報検索用のPCが3台あります。蔵書検索の結果、雑誌記事情報の検索結果をプリントアウトできるようにプリンタもありますので、利用してください。なお、この用途以外でのプリンタの使用はご遠慮ください。文書作成のためのPCはありません。

図書館内のPC・AV機器で、持ち込みソフト等の利用はご遠慮ください。

3. 図書館サービス

(1) **貸出** ...延滞にはくれぐれもご注意を!延滞がある利用者には新たな貸出は行いません。

利用者区分	1~3回生	4回生・大学院生	教員 非常勤講師	研究生・職員	学外者 (シティーカレッジ履修生・ 単位互換学生・ 府立医大学生教職員)
貸出期間・冊数	2週間 6冊	2週間 6冊 1ヶ月 6冊	2週間 6冊 4ヶ月 20冊	2週間 6冊	2週間 6冊

4 休業中は貸出期間を延長します。また、予約が入らない限り、何度でも同じ資料を借りられます。

- (2) **相互利用サービス** 府大にない資料入手のお手伝いをします。
他大学への閲覧照会 (府大図書館で事前手続きが必要です)。
学外からの図書・コピーの取り寄せ (実費が必要です)
- (3) **レファレンス** 利用者と資料を結びつけるための相談に応じています。
「書架の場所がわからない」「資料が見つからない」「資料の探し方がわからない」「もっと資料があるのでは?」「何に自分の必要な資料が載っているのかわからない」etc. 困った時は、イヤになる前に職員に遠慮なくお尋ね下さい。

4. 図書館ホームページなど

本学所蔵の資料の検索ができる (完全にデータ化は終わっていませんのでご注意ください) 他、学外からのコピーの取り寄せ (要事前パスワード登録)、開館日カレンダー、新着図書案内などがあります。また、本学契約の電子ジャーナルへもこちらからリンク (学内からの接続のみ) しています。

本紙『京都府立図書館報 なからぎ』も No.158 (2002) からバックナンバーが PDF でご覧いただけます。図書館利用関係で参考になるものを一部紹介しますと、

- 「当館所蔵資料の検索にあたって～目録情報のデータ化現状と OPAC 利用の留意点～」
【No.166 2004 年 1 月】
- 「本との確かな出会いを」～予約申込・リクエストへのご案内～【No.168 2004 年 7 月】
- 「資料との確かな出会いを」～他大学等の利用、コピー・図書の取り寄せのご案内～
【No.169 2004 年 10 月】
- 「図書館のカウンターから～レファレンス～」
【No.170 2005 年 1 月】

他にも、興味深い資料の紹介や先生方の記事もありますので、目を通してみてください。年 4 回の発行です。

5. 資料の配架

次頁に、図書館内の資料の配架一覧と、カウンターのある 2 階閲覧室の配架図を掲載します。参考にし、自分が欲しい資料を手にしてください。わかりにくい時は、遠慮なく職員におたずねください。

学生希望図書の申込書を入れるポストなどが新しくなりました!



提案公募型教育研究環境等整備推進事業の一環として活動されているグリーンボランティアのみなさんに、作っていただきましたので紹介します。POSTのOの中には、赤いてんとう虫もついていきますので、よく見て下さいね。

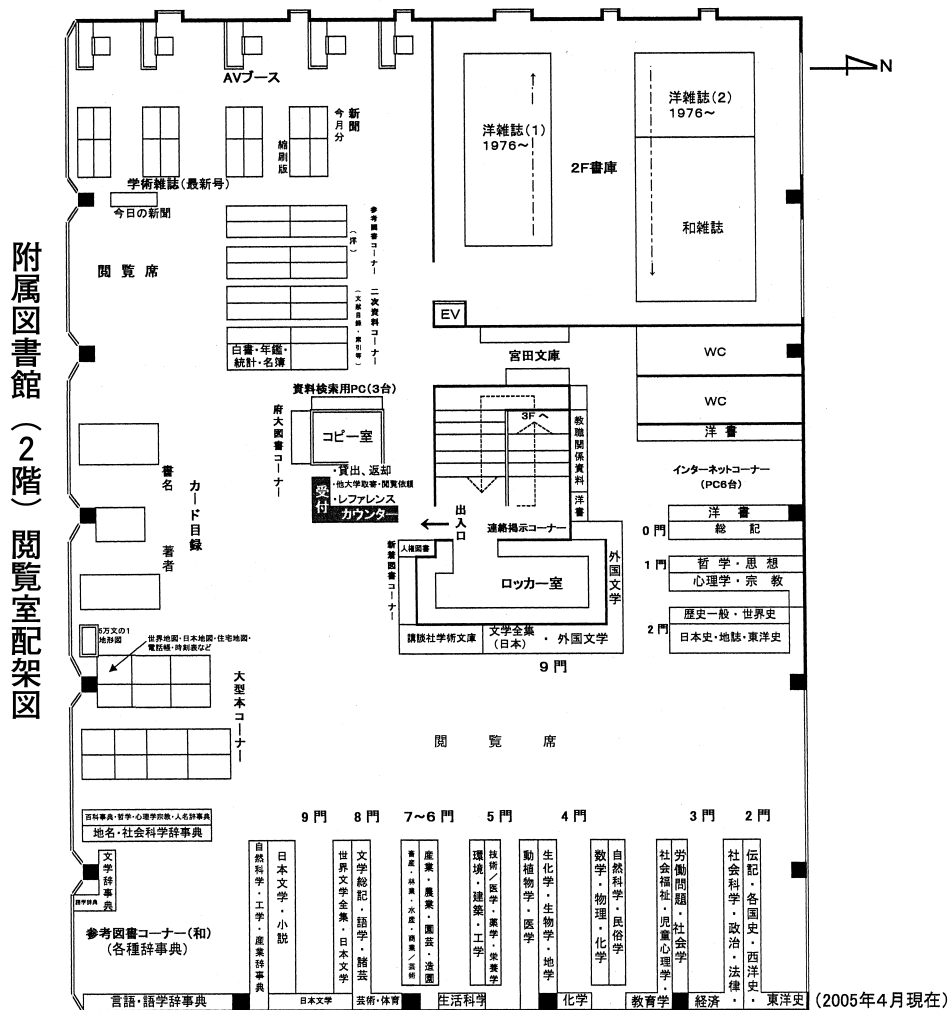
新年度が始まりました。今年度も多くのリクエストをお待ちしています。

もう一つ、合同合議棟の 1 F 入口正面の図書館用掲示板も、合わせて作っていただきました。今までは延滞者の掲示や新着図書案内に使っていましたが、大きく立派になったのを機会に、図書館の各種お知らせに活用したいと思えます。こちらもぜひ注目して下さい。(延滞者リストには載らないようにご注意を!)

図書館内の資料の配架場所一覧

2005年4月現在

	2階閲覧室	1階書庫	3階書庫	東書庫1	東書庫2
場所		2階閲覧室の検索用PC左手奥のエレベータで移動	2階閲覧室の検索用PC左手奥のエレベータで移動	1階の閲覧室へ上がる階段前(事務室向かい側)	1階の閲覧室へ上がる階段前(テニスコート側)
		学内者は出入り自由		通常は施錠(カウンターに鍵あり);	
図書の背ラベル		請求記号のラベル3段目が黄色	請求記号のラベル3段目が黄色	通常ラベルの最下部に“白田文庫”と記載あり(書庫表示の黄色はなし)	赤枠のラベル(研究室資料)
OPACの表示	開架大型考 府大コーナー 2F書庫	1F書庫	3F書庫(文庫・新書) 3F書庫(大型) 3F書庫(特大) 3F書庫(教科書) 3F書庫(府大資料)	東書庫 白田文庫(東書庫)	東書庫
図書	和書・洋書に分けて配架 注意! OPACの表示は全て開架だが、 ・教職 ・人権図書コーナー ・講談社学術文庫(最近受入分は個別分類)別置	人文社会科学関係の和書 (請求記号) 0-3、8-9	自然科学・産業関係の和書 (請求記号) 4-6 ・洋書・大型・文庫は全分野 ・四庫全書	白田文庫 (白田氏寄贈の英米文学関係資料) 壁面に和洋別に一連番号順に配架 洋...北側から和...(洋の後、東側)	東洋史の一部、 3階書庫へ移動処理中 東洋史、西洋文化史の研究室に置くスペースのない多巻ものの資料
雑誌・新聞等	(閲覧室内) ・利用の多い雑誌 本年分 ・今月分の新聞、朝日新聞縮刷版の過去1年分 (北側の集密書架) ・一部の和雑誌のバックナンバー (カウンターの青いファイル要参照) ・過去1年分の新聞 ・洋雑誌の1976年発行以降のバックナンバー(例外もあり)		・新聞の縮刷版 (朝日・日経)	・多くの和雑誌のバックナンバー(ただし、2階に配架されているものもあり。カウンターの青いファイル要参照) ・1975年以前の洋雑誌 ・統計書 (京都府統計書等、図書扱いのものは、それぞれの分類へ)	・東洋史、西洋文化史の研究室に置けない雑誌 ・昆虫、果樹、土壌関連の雑誌の一部(和・洋とも) ・洋雑誌の一部1976~90年発行分 ・Biochemica et Biophysica Acta ・Biopolymer ・Journal of Biological Chemistry



利用者の声

図書館という場所

御田 祐美子

図書館という場所は、いつ来ても「変わらない」と思う。少しほっとする。食堂や講堂だと、中にいる学生や先生の顔ぶれや数が変わると空気は一変するのに、図書館だとそうは感じない。

これはなぜだろうか。おそらく、図書館を占める大多数のもの、つまり「本」が変わらないからだと思う。情報はそれ自体、移り変わるものではなく、地層みたいに堆積して変化しないものだからだ。

では一体、何が移り変わるのか。それは自分の頭の中だ。変わらない情報たちを取り入れ、再構築していくのはすべて自分の仕事だ。したがって、図書館という非常に受動的な場所に、意志を持って出かけていき、本を手取るという動作は、(見た目は地味だけど)とてもポジティブな行為なのである。だから、自分はいつも受け身だと嘆いている人などは、ぜひ図書館に行くことをおすすめする。

本の読みかたについて。私の場合、とりあえず一

気読みをしながら、気になったページに付箋をはり、あとで書き写したりコピーをする、もしくは途中で放り出すというのがパターンだ。しかしこれは何を読むかという問題と同じで、結局は人それぞれだ。

それから、図書館の本には、本屋に売っている本にはない最大の魅力がある。それは他の利用者の書き込みだ。以前、ある小説で、よほど中身に共感したのか、ある人が十数ページにわたって鉛筆で線を引きまくっていた。かなり読みづらかったが、線を引いた箇所を見ると、「この人、きっと中学生のとき嫌な経験でもあったんだろうな」としか思えないところが多々あり、何だか同情してしまった。書き込みはご法度だけど、こういうのはおもしろくて憎めない。

最後に、図書館は単に本を読みに行くところでもない。自習しに、とか。資料探しに、とか。猫と戯れついでに、とか。空気吸いに、とか。お昼寝しに、とか。動機は何でもいい。肩ひじ張らずに、何とはなしにぶらっと行ける。そしてそれを受け入れてくれるのが、いじらしいほど受動的な図書館のいいところだと私は思う。

(おんだ ゆみこ：国中文二回生)

御田祐美子さんが昨年度の彦根市主催の舟橋聖一顕彰文学賞最優秀賞を獲得されたことは、既に一般報道や府大広報等で紹介されておられますのでご存知の方も多いことでしょう。受賞作「なめくじ共和国」が掲載されている『平成 16 年度舟橋聖一顕彰文学賞受賞作品集』は彦根市立図書館から寄贈を受け、2階閲覧室府大コーナーに配架しています。是非ご覧下さい。(請求記号 918.6 F)

京都府立医科大学付属図書館の貸出期間等が変わりました

通常、他大学の図書館を利用する場合は、事前に府大の図書館を通じて照会が必要です。照会がない場合は閲覧のみで、その資料を来館者が直接借り受けることはできません(図書館間の相互協力制度を通じての貸出のみ)。

しかし、京都府立医科大学付属図書館(以後「医大図書館」と略します)だけは、同じ府立の大学同士だということで、府大の学生及び教職員も、事前照会なく利用可能で、資料の個人貸出もできます。

そのルールが、本年2月1日より変更になりました。利用の際にはご注意ください。

利用証がないと資料を借りることはできません。

(利用証発行に1週間程度かかるので、初めて利用した日は資料を借りることができません。事前に利用証の申請をしておく、医大図書館の資料が必要になった時、即借りられるので便利です。学生証あるいは身分証を医大図書館のカウンターに提示して、利用証発行の申請をしてください。)

貸出冊数・期間は、5冊・1週間以内(ただし、雑誌は発行後約1年間は2日間)です。

ビデオ・CD-ROM、利用の多い新着雑誌などを借りることはできません。

延滞資料がある利用者には新たな貸出はできません。

延滞資料の返却後も、延滞日数に応じて貸出不可となります。

同じ府立の大学同士でも、あくまでも他大学です。ルールを守って利用してください。なお、医大図書館の資料の検索については、本学図書館のHPの下の方の"学外検索のページへ"からも入れますのでご利用ください。

所蔵速報

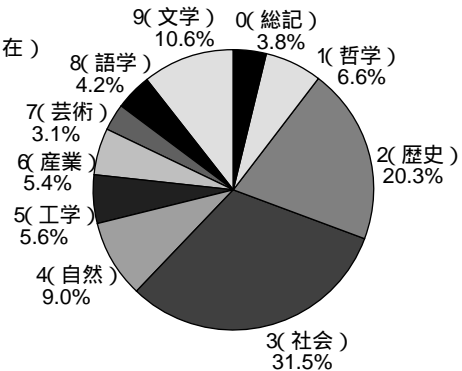
京都府立大学には、平成17年3月現在、約36万8千冊の専門参考、教養図書資料があります。図書館で所蔵しているものは約12万9千冊で、そのうち開架図書(約4万冊)は2階閲覧室に、他は各書庫にあり、いずれも自由にご覧いただいています。但し東書庫への入室はカウンターで鍵を受け取ってください。また、学部、講座で所蔵している資料(約23万9千冊)を閲覧する場合は、各研究室での所定の手続きが必要です。

なお、この1年間、図書館で新たに受け入れた資料は下表のとおりです。

平成16年度中に図書館で受入れた資料の種類別冊数

(H.16.4月～H17.3月分) - 中間速報 - (2005.3/2現在)

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
種類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	語学	文学	
和書	83	153	450	733	192	130	120	72	95	246	2274
洋書	3	0	6	1	18	0	6	0	0	2	36
中国書	2	0	17	0	0	0	0	0	3	0	22
地図資料	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	88	153	474	734	210	130	126	72	98	248	2333



カレンダー

2005年4月

2005年5月

2005年6月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		
【4/1(金)～通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】 【～4/11(月)春休み長期貸出図書返却期限】 【4/29(金) みどりの日】						【5/2(月)～通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】 【5/3(火) 憲法記念日】【5/4(水) 国民の休日】 【5/5(木) こどもの日】						【6/1(水)～通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】								
開館時間等																				
通常開館	9:00 - 20:00																			
春期休業	～4/8	9:00 - 16:45																		
休館日	土・日・祝祭日																			

図書館利用のご案内

お知らせ

図書貸出、文献複写、一時持出や他校への閲覧依頼等、「図書館サービス」を受けていただくためには「図書館利用カード」の提示が必要です。
貸出図書は予約が入っていない限り、期間延長できますので、期限切れまでに返却したうえで、あらためて貸出手続きをしてください。

新入生の皆さん
ご入学おめでとう
ございます。

入学式の時お渡ししました「図書館利用カード」は、図書館をご利用いただく際、必要です。紛失しないよう、大切に携帯ください。

他大学利用の際のお願い

他大学の図書館を利用される際には、原則として、所属図書館を通じた事前照会が必要です。

「最近、府立大学の学生さんが何人も、突然来られて困っています。」と、某大学から連絡がありました。

ルールを守れば、他大学の図書館も利用させていただきます。

閲覧希望日の遅くとも1日前までに、府大図書館の2階閲覧室カウンターで手続きをしてください。